

人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点	学校全体として人権尊重の視点に立った学校づくりが組織的かつ効果的に進められている実践事例)
-------	-----------------------------------------------

1. 基本情報

○都道府県名及び市町村名

沖縄県那覇市

○学校名

沖縄県立真和志高等学校

○学校のURL

<http://www.mawashi-h.open.ed.jp/>

2. 学校紹介

○学級数

【通常の学級】 20学級、【特別支援学級】 0学級、 【合計】 20学級

○児童生徒数

【全児童生徒数】 671人（平成26年 5月 1日現在）
（内訳：男子 321名、女子 350名）

○人権教育開発推進事業、人権教育研究推進事業実績（実施年度及び事業の別）

特になし

○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

【学校の教育目標】

自己の将来の進路について、自分で考え、自分で判断し、自分の責任で選択できるとともに、他者を尊重し、思いやりのある生徒を育成する。

【人権教育に関する目標】

「他者を尊重し、思いやりのある生徒を育成する」

○人権教育に係る取組一口メモ

教育活動全般をとおして他者を尊重し、思いやりのある生徒の育成

○人権教育にかかる取組の全体概要

- 教育活動全般を通して実践し、全職員が共通認識で効果的に取り組む。
- 定期的なアンケート調査を実施し、個々の生徒の実態を把握する取組。
- 家庭、地域、関係機関等との連携

3. 特色ある実践事例の内容

(取組のねらい、目的)

若者を中心にエイズを含む性感染症や妊娠中絶の増加等、性にかかわる諸問題が深刻になっている。これらについて正しい知識を学ぶとともに、生命の尊さや生き方、人権について考え、望ましい行動選択について、自分の人権を守り、他者の人権を守るための実践行動について学ぶ機会とする。

(取組を始めたきっかけ)

予期せぬ妊娠により進路変更をせざるを得ない状況に至るケースがある。

(取組の内容)

全校生徒を対象とした「性教育人権講話」の実施
講話「ライフサイクルと性の健康～幸せな関係をつくる」
講師 助産師・思春期保健相談士

(取組の主体や実施体制)

平和教育・人権委員会（教頭、各学年代表各2名、保健・カウンセリング担当1名）で計画を立て、全校生徒対象に体育館において講話を実施後、質疑応答及び各学級担任によるアンケートを実施した。

4. 実施する際に生じた課題及びその解決策

性に関する基礎的・基本的な事項は小・中学校において学習してきており、その知識が定着しているものと認識して取り組んだが、その後のアンケート等の結果から必ずしもそうでないことが分かった。しかし、生徒たちは講話等の主旨を適切にとらえ、真剣に取り組んだ。

このような実態を考慮し、その翌週には1年次を対象に「性教育講演会～助産師さんに聞いてみよう！思春期のこころとからだのこと」を開催し、更に知識の定着と相手を思いやる人権意識の高揚に努めた。

5. 実践事例の実績、実施による効果

全体としての感想（特に多かったものについては）以下の通り。

- ・初めて知ったことがたくさんあった。
- ・改めて知ることがあって勉強になった。
- ・「性」に対するイメージが悪かったが、大切なことだと思った。
- ・自分には関係ないと思っていたが、「性」について学ぶことはとても大事。
- ・良い勉強になった。
- ・まだまだ知らないことが多いことに気づかされた。
- ・誤った情報が多い。正しい知識を身につけることが大切。
- ・ふだんは余り聞く機会がないので、学校で聞けて良かった。
- ・これからの生活に役に立つ。
- ・相手を大切にしようと思った。
- ・沖縄の現状がわかった。（驚いた）
- ・今いるパートナーとのいい関係を築けていたらいいなと思いました。

性教育講演会アンケート集計結果

項目	回答	男(82)		女(95)		計 177
		82	%	95	%	
自分の体と妊娠について理解できた	はい	76	92.7	93	97.9	169
	いいえ	5	6.1	2	2.1	7
自分の体のことや異性のことを相談できる人がいる	はい	28	34.1	64	67.4	92
	いいえ	50	61.0	36	37.9	86
子どもがいる生活をイメージできた	はい	54	65.9	74	77.9	128
	いいえ	27	54.0	13	13.7	40
もし、性交渉をする気分になれないとき、好きな人から誘われたらどうする？	断る	41	50.0	52	54.7	93
	断らない	6	7.3	2	2.1	8
	断れない	0	0.0	2	2.1	2
	答えられない	6	7.3	7	7.4	13
	わからない	26	63.4	25	26.3	51
	その他	3	3.7	3	3.2	6
もし、相手から性交渉を断られたらどう思う？	仕方ない	58	70.7	60	63.2	118
	嫌な気分	1	1.2	0	0.0	1
	傷つく	1	1.2	8	8.4	9
	むかつく	2	2.4	1	1.1	3
	バカにされている気持ち	0	0.0	2	2.1	2
	答えられない	16	19.5	15	15.8	31
	その他	4	4.9	10	10.5	14

自分の体のことや異性のことを相談できる人がいる(人)

【男子】

友達	22
親	2
母親	2
兄弟	1

【女子】

友達	30(メル友1)
親	7
母親	12
姉妹	2
祖母	1
学校の先生	1
担任	1
いとこ	1

上記アンケートの結果から、性に関する正しい知識と自分のこころとからだを守ると同時に相手のこと思いやる力をつけることができたものとする。

6. 実践事例についての評価

(取組についての評価、及びその理由)

正しい知識を得ることは正しい行動につながるものと感じた。日頃から全体集会においては、静かに人の話を聞く態度は良好であるが、長時間になると騒々しくなることが多い。しかし、今回の講話においては全員が自分のこととして考え、しっかり顔をあげ話を真剣に聞いていた。

(現在、実施に当たって課題と感じていること)

人権意識の高揚は単発の講話や取り組みで培われるものではなく、日頃の教育活動全般を通して、系統的に行うことが肝要である。今回の取組の成果を認識しつつ、系統的・継続的な取り組みになるようにしていかなければならない。

【人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント】

沖縄県立真和志高等学校

高校において、性に関わる問題に焦点を合わせて人権学習を展開している。一般的な学習ではなく、助産師・思春期保健相談士を講師に迎え、若者を中心にエイズを含む性感染症や妊娠中絶の増加等を正面から取り上げている点は本校の特徴である。学習では、生徒にとって課題が身近になるような工夫が様々に組み込まれた。学習後にアンケートを行い、統計的な数字と自由記述が紹介されている。その結果に、学習の成果が現れているといえよう。人権学習の評価については議論のあるところであり、評価法という問題を考えるとき、一つの参考になると言えよう。学校をあげて系統的に取り組むことによって、そのような成果が上がったものと考えられる。